対応が難しい学生・院生に関する対応と支援に関する意見交流会：ランチミーティング方式(自主的 FD 活動)

報告書作成者: 千賀　愛（札幌校　特別支援教育専攻・特別支援教育プロジェクト員）
企画・運営：三浦哲・青山眞二・安井友康・齋藤真善・千賀愛
参加者：延べ人数 18 名（すべて札幌校）

日時：第１回　7 月 24 日（水）お昼休み
　　第２回　10 月 23 日（水）お昼休み
　　第３回　11 月 20 日（水）お昼休み

場所：札幌校研究棟西 110 室（特別支援教育専攻　総合演習室）

１．活動の概要

本企画は、平成 22 年度から毎年継続的に行ってきた「対応が難しい学生・院生に関する理解と支援」に関する自主的なＦＤ企画の一環として行うものであり、５年目となる今年度は幅広い参加者を可能にする時間に設定し、参加者が各自で昼食を持参して行うランチミーティング方式で複数回実施することとした。これにより、講義期間の日中に時間を確保することができ、学生の教育・支援に日常的に関わりのある事務や保健管理センターの職員の参加も可能になった。昨年までの自主的 FD 活動のアンケート結果から、年間１回ではなく年度内に複数回実施してほしいとの意見が多くあったため、今年度は３回に分けて FD 活動を実施した。本活動は、いわゆる講義方式ではなく、対応が難しい学生・院生に関する参加者自身の経験を話題提供し、同じキャンパス内の教育活動として、講義や実習等の様々な場面を想定して、ケース検討を行う演習形式をとっている。個人情報保護の観点から、提供する事例は口頭のみとし、個人名は伏せている。

各回の終了時には、記名式のアンケートを実施し、FD 活動の満足度とその理由、次回の FD 活動への要望等を回答してもらっている。

２．得られた成果と評価，および評価の根拠資料

３回にわたって行った自主的 FD 活動の延べ人数は１８人（アンケート回答数１８）であり、1 回の参加人数は６～８人であった。18 件のうち「大変満足している」は１４件、「満足している」は４件、「不満である」「大変不満である」は０件であり、参加者の高い満足度がうかがえる。参加者が満足していると答えた理由（自由記述）は、「実際の困

っている事について良い参考となった」「種々の現状が聞けてよかった」「様々な事例が聞けて良いです」「対応が難しい学生の背景要因について様々な角度から考えることができた」「今回はこれまで出来ていなかった運動機能面の話も聞けた事」「毎回新しい情報と考えを聞く事ができるから」「実質的な話し合いができたから」というものであった。

とくに 10 月 2 3日の回には、日頃から学生の窓口対応をしている事務系職員と心身のケアをしている保健管理センターから参加者があり、教員だけではとらえられない学生の姿を共有することができた。

今回の自主的 FD 活動の感想（自由記述）では、「事務系の人の参加もあって、これまでとは違った情報にも接することができ、有意義であった」「教員以外の職員のお話が聞けてよかった」「少人数で具体的に突っ込んだ話ができた」「（ランチミーティング方式について）気軽に集まれる雰囲気を維持できるといいですね」「今回のように、複数回であれば、出張等で参加できない場合にも都合が良い」とのことであった。

来年度に向けての意見（自由記述）では、「次回も複数回、このような形で行ってほしい」「定期的に開催するのが望ましいくらい必要度の高い集まりだと思います」とあり、複数回に分けて実施する意見が目立っていた。また、内容については、「対応困難例と、その対応方法を知りたいです」「教務課の職員の方ともお話してみたい」「次年度も複数回を望みます。事務職員の方々との交流もしたいです」「引き続き、突っ込んだ話ができる集まり方が望ましい。基本的には現状の継続」とあり、少人数での形態を希望する意見が多かった。

３．今後期待される改善の効果

アンケート結果の記述にあるように、対応が難しい学生・院生に対して講義やゼミ、実習指導など、様々な場面で現在困っているという事例や、過去の経験を議論したことによって、具体的な事例の解決方法や対応策についての示唆を得る事ができた。

学生・院生の教育において、困難を感じる事例は少数であるにもかかわらず、全体の教育レベルやゼミ（研究室）運営に大きな影響を与える。そのため、対応が難しい事例への経験を積み重ね、対応策を議論することは、教員としての学生指導の能力形成にとって有益であると考えられる。

また本企画は、参加者の自由記述にもあったように、来年度以降も年度内に複数回の活動を実施することによって、継続的な改善の効果が見込まれる。